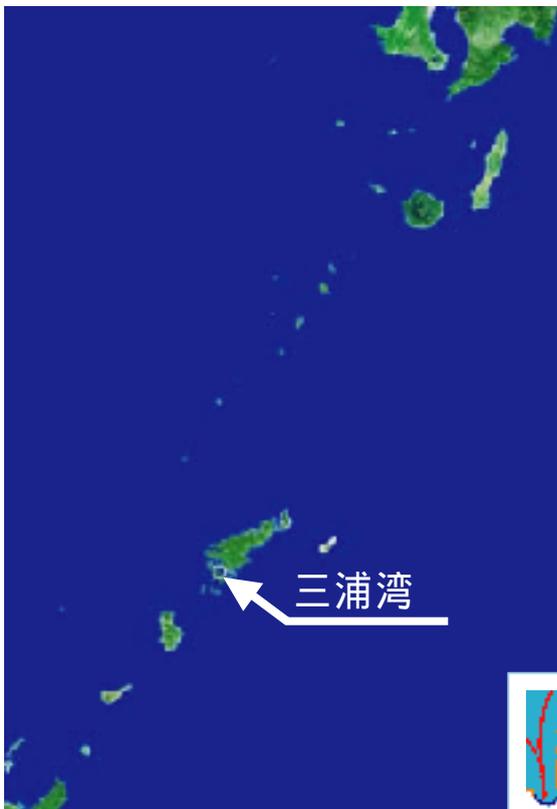


海域の概要

本湾は、奄美大島南側の加計呂麻島中部に存在する湾で、東部を大島海峡に開いています。湾奥には俵港があります。湾内ではクロマグロの養殖が行われています。



Specification

諸元

湾口幅：1.2 km

面積：6.19 km²

湾内最大水深：6.0 m

湾口最大水深：6.0 m

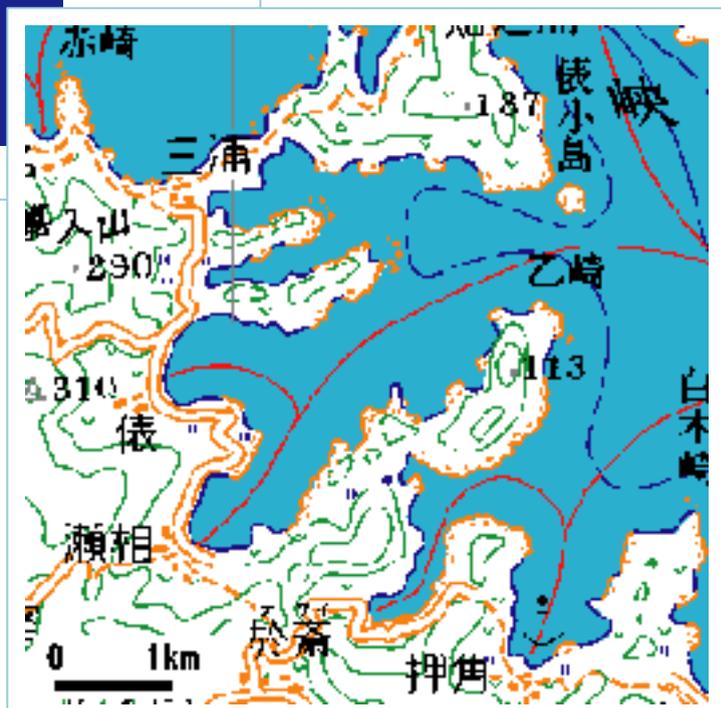
閉鎖度指標：2.07

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

鹿児島県大島郡瀬戸内町乙崎から 359 度に引いた線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

奄美大島南部の加計呂麻島中央部に位置し、湾口を大島海峡に向けて北東に開いている湾で、島の西方を黒潮本流が北上しています。気候は、南西諸島気候区に属し、一年中暖かく雨が多い亜熱帯気候を示します。夏季には台風の影響を受けやすい地域です。

大島海峡では、潮の流れもよいので透明度は大変良いです。

大きな集落もなく、流入河川も依付近に1河川あるのみとなっており、水質は良好で、クロマグロ養殖試験の拠点にもなっています。

また、平成12年度のCOD平年値は1mg/l程度となっております。

底質は、湾岸では岩や礫の険礁などが分布していますが、その他の大部分は、砂や泥で構成されています。

自然

湾口には、俵小島があり、湾奥では3つの支湾に分かれています。湾中央部の水深は、30～50m程度となっています。湾奥部の依らびに瀬相の地先海域を除き、奄美群島国立公園に指定されています。

三浦湾が面する大島海峡でみられる造礁サンゴは、約60属200種以上ともいわれています。近年も新種が発見されていることからいまだ未知の部分をもった海といえます。このように多種多様なサンゴが生息しているのは、大島海峡が太平洋と東シナ海を結ぶパイプのような形をしており、そのため新鮮なプランクトンや栄養分が絶えずスムーズに流入していることが大きな原因と考えられています。また、海峡はさみ島の両岸の海岸線が深く入り組み、風の直撃を受けることも少なく、加計呂麻島が外洋からの自然の防波堤になっていることもサンゴの生育を促している要因と考えられます。



大島海峡のサンゴ礁

文化歴史

湾奥には戦跡が多くあり、旧海軍特攻隊跡、旧第17震洋隊駐屯基地、旧海軍設営隊基地、平松山(ナガネ山)砲台跡、乙崎高射砲跡、防空見張所などの旧帝国海軍の施設などを見ることができ、奄美群島海軍部隊戦没者慰霊碑もあります。

産業

漁業と観光業が中心で、三浦地区では真珠養殖基地があります。また、三浦地区では平成7年度より国営のクロマグロ養殖試験の拠点となっています。

湾奥の瀬相は、大島本島の古仁屋港と結ぶ「加計呂麻フェリー」の発着場となっています。



加計呂麻フェリー